

第1種基本仕様新旧対照表

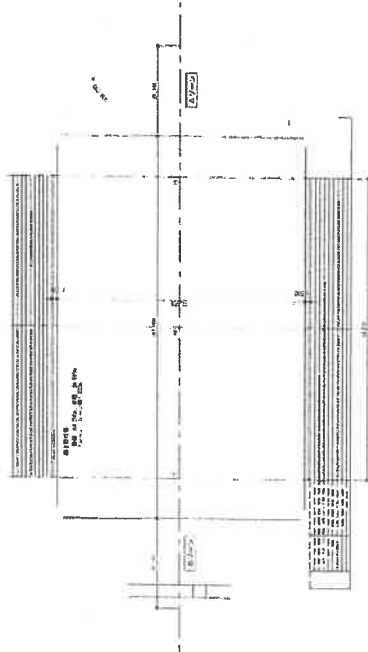
第1種公認陸上競技場（新設陸上競技専用、新設多目的、既設）	改 正
<p>この基本仕様は、世界陸連の示す TRACK AND FIELD FACILITIES MANUAL の内容を準用し、公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程のほか関連する規則の規程による。</p> <p>1 トラックは8レーンまたは9レーンとし、1レーンの幅は1m220とする。走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートライン付近の厚さは18mm以上とする。（陸上競技専用、既設）</p> <p>1 トラックは8レーンまたは9レーンとし、1レーンの幅は1m220とする。走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートライン付近の厚さは18mm以上とする。トラックは直走路82m～84m500を推奨する。（多目的）</p> <p>2 障害物競走の水濺は、レーンの内側または外側に設置する。水濺の部分の走路の厚さは25mm以上とする。</p> <p>3 トラック内のマーキングは、必要最小限とする。</p> <p>跳躍場</p> <p>4 第1曲走路側の半円部分をAゾーン、第2曲走路側の半円部分をBゾーンと称し、トラックの半径の2つの中心点を結んだ線の延長上の全天候舗装部分の長さは、原則としていずれかを25m以上とし、助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。</p> <p>5 走幅跳、三段跳の助走路ならびに砂場は、メインスタンド側またはバックスタンド側（インフィールドでもよい）に6カ所以上設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。</p> <p>6 棒高跳の助走路ならびにボックスはAゾーン、Bゾーンのいずれかに2カ所または4カ所、アウトフィールドのバックスタンド側に2カ所または4カ所の合計6カ所以上を設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。</p>	<p>この基本仕様は、世界陸連の示す TRACK AND FIELD FACILITIES MANUAL の内容を準用し、公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程のほか関連する規則の規程による。</p> <p>1 トラックは8レーンまたは9レーンとし、1レーンの幅は1m220とする。走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートライン付近の厚さは18mm以上とする。</p> <p>2 障害物競走の水濺は、レーンの内側または外側に設置する。水濺の部分の走路の厚さは25mm以上とする。<u>水濺を内側に設置するときには、トラックの直走路84m390以上を推奨する。</u></p> <p>3 トラック内のマーキングは、必要最小限とする。</p> <p>跳躍場</p> <p>4 第1曲走路側の半円部分をAゾーン、第2曲走路側の半円部分をBゾーンと称し、トラックの半径の2つの中心点を結んだ線の延長上の全天候舗装部分の長さは、原則としていずれかを25m以上とする。<u>走幅跳はAゾーン、Bゾーンに合計3カ所以上、いずれかのゾーンで2カ所同時に競技が出来るように設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。</u></p> <p>5 走幅跳、三段跳の助走路ならびに砂場は、メインスタンド側またはバックスタンド側（インフィールドでもよい）に6カ所以上設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。</p> <p>6 棒高跳の助走路ならびにボックスはAゾーン、Bゾーンのいずれかに2カ所または4カ所、アウトフィールドのバックスタンド側に2カ所または4カ所の合計6カ所以上を設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。</p>

<p>投てき場</p> <p>7 投てき用芝生は、多目的競技場の仕様を意図して延長最大 106m×73m とする。ただし、以下に定める条件に適合する競技場のみ、延長最大 107m×73m まで認める。延長を認める競技場の数は全国 47 国 47 カ所以内とし、検定時に以下の条件を満たさないことが判明したときは、公認の資格を取り消す。(随上競技専用、既設)</p> <p>【条件】</p> <p>① 多目的使用として認める第 1 種公認陸上競技場。</p> <p>② 全投てき種目における決勝の実施が可能であること。</p> <p>7 投てき用芝生は、投てき距離が十分であるようスペースを確保する。多目的競技場の仕様を意図するときは、延長最大 106m×73m とする。ただし、以下に定める条件に適合する競技場のみ、延長最大 107m×73m まで認める。延長を認める競技場の数は全国 47 カ所以内とし、検定時に以下の条件を満たさないことが判明したときは、公認の資格を取り消す。</p> <p>【条件】</p> <p>① 多目的仕様として認める第 1 種公認陸上競技場。</p> <p>② 全投てき種目における決勝の実施が可能であること。(多目的)</p> <p>8 砲丸投は、芝生に投てきするサークルを 2 カ所以上設置する。その他 A ゾーンまたは B ゾーンのいずれかに、扇形の投てきエリアをつくることができる。</p> <p>9 ハンマー投、円盤投のサークルは兼用型でもよいが、2 カ所設置する。砲丸投のサークルと兼ねてはならない。</p> <p>10 ハンマー投の囲いのパネルの高さは 9m、7m とする。円盤投の囲いは従来通りであるが、ハンマー投の囲いで兼ねることができる。</p> <p>11 やり投の助走路の末端は、やりが構造物と接触しないようにする。助走路の厚さは 15 mm 以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは 18 mm 以上とする。半円より外側の助走路の厚さは 13 mm でもよい。</p> <p>構造物</p> <p>12 レーンの外側からスタンドまでは極力近づける。ただし、スタンドから競技全体が見わたせ、死角が生じないように配慮する。</p> <p>13 メインスタンド側のダッグアウトの幅は 2m 程度が望ましく、また床のレベルはグラウンドレベルとする。やむをえない場合は 50 cm まで下げることができる。</p> <p>14 ダッグアウトの天井の高さは最低 2m300 以上が望ましい。</p> <p>15 メインスタンドの中央廊下の幅は 3m 以上が望ましい。</p> <p>16 高齢者、身障者に配慮し、車椅子席を設置する。またその動線を確保する。</p> <p>16 高齢者、身障者に配慮し、車椅子席を設置する。その席数については、条例または行政と協議されたい。(既設)</p>	<p>投てき場</p> <p>7 投てき用芝生は、投てき距離が十分であるようスペースを確保するものとし、最大 106m×73m とする。ただし、以下に定める条件に適合する競技場のみ、最大 107m×73m まで認める。延長を認める競技場の数は全国 47 カ所以内とし、検定時に以下の条件を満たすことを要する。</p> <p>【条件】</p> <p>① 本連盟が多目的使用の競技場として認める第 1 種公認陸上競技場。</p> <p>② 全投てき種目における決勝の実施が可能であること。</p> <p>8 砲丸投は、芝生に投てきするサークルを 2 カ所以上設置する。その他 A ゾーンまたは B ゾーンのいずれかに、扇形の投てきエリアをつくることができる。</p> <p>9 ハンマー投、円盤投のサークルは兼用型でもよいが、2 カ所設置する。砲丸投のサークルと兼ねてはならない。</p> <p>10 ハンマー投の囲いの可動パネルと最前部の 2m の部分の囲いの高さは 9m 以上、囲いの後部のパネルが網掛け部分は 7m 以上とする。ハンマー投の囲いで円盤投の囲いを兼ねることができる。</p> <p>11 やり投の助走路の末端は、やりが構造物と接触しないようにする。助走路の厚さは 15 mm 以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは 18 mm 以上とする。半円より外側の助走路の厚さは 13 mm でもよい。</p> <p>構造物</p> <p>12 レーンの外側からスタンドまでは極力近づける。ただし、スタンドから競技全体が見わたせ、死角が生じないように配慮する。</p> <p>13 メインスタンド側のダッグアウトの幅は 2m 程度が望ましく、また床のレベルはグラウンドレベルとする。やむをえない場合は 50 cm まで下げることができる。</p> <p>14 ダッグアウトの天井の高さは最低 2m300 以上が望ましい。</p> <p>15 メインスタンドの中央廊下の幅は 3m 以上が望ましい。</p> <p>16 高齢者、身障者に配慮し、車椅子席を設置する。またその動線を確保する。車椅子席の席数については、条例その他の法令等の規定に従うものとする。</p>
---	--

<p>17 用器具庫は2カ所以上とし、合計面積は500㎡以上でマット等が完全に収容できるものとする。用器具庫の出入口の高さ、間口はマット等の出し入れに支障のないようにする。床はグラندレベルにする。</p> <p>17 陸上競技に必要とする用器具庫は2カ所以上とし、合計面積は500㎡以上でマット等が完全に収容できるものとする（多目的としての用器具庫は別途考慮する必要がある）。用器具庫の出入口の高さ、間口はマット等の出し入れに支障のないようにする。床はグラندレベルにする。（多目的）</p> <p>18 夜間照明設備を必要とし、1m220の高さで平均照度が1000lx程度とする。また、フィニッシュラインは1500Lx以上を確保する。</p> <p>19 電光掲示盤を設置することが望ましい。日本選手権大会、国民体育大会、その他国際競技会等の全国大会規模（以下、大規模競技会）の会場では、仮設でもよい。常設にあたっては本連盟と事前に協議されたい。</p> <p>20 スタンドの上層部には放送室、指令室、電光掲示盤操作室等を設け、同一レベルに隣り合わせて写真判定室ならびに装置を設置する。また、下層部には、情報処理室、コピー室、医務室、ドーピング検査室、ウエイト・トレーニング室等を競技会運営上、最も使用しやすい場所に設ける。</p> <p>21 大規模競技会では、記者席はフィニッシュライン上方の観覧席に設置し、電話、モニター等の設置が可能な施設とする。（陸上競技専用）</p> <p>21 多目的競技場としての記者席、観覧席、ドーピング検査室等が定められるが、大規模競技会の運営上からは、記者席はフィニッシュライン上方に仮設でもよいが設置し、電話、モニター等の設置が可能な施設とする。（多目的）</p> <p>21 記者席は仮設でもよいが、フィニッシュライン上方の観覧席に設置し、電話、モニター等の設置が可能な施設とする。（既設）</p> <p>22 大規模競技会では、監視カメラ（12カ所）を必要とする。</p>	<p>17 用器具庫は2カ所以上とし、合計面積は500㎡以上でマット等が完全に収容できるものとする。用器具庫の出入口の高さ、間口はマット等の出し入れに支障のないようにする。床はグランドレベルにする。<u>ただし、他の競技の用器具等も収納する場合は、この基準を充足するほかにその必要な広さを確保するものでなければならぬ。</u></p> <p>18 夜間照明設備を必要とし、1m220の高さで平均照度が1000lx程度とする。また、フィニッシュラインは1500Lx以上を確保する。</p> <p>19 電光掲示盤を設置することが望ましい。日本選手権大会、国民体育大会、その他国際競技会等の全国大会規模（以下、大規模競技会）の会場では、仮設でもよい。常設にあたっては本連盟と事前に協議されたい。</p> <p>20 スタンドの上層部には放送室、指令室、電光掲示盤操作室等を設け、同一レベルに隣り合わせて写真判定室ならびに装置を設置する。また、下層部には、情報処理室、コピー室、医務室、ドーピング検査室、ウエイト・トレーニング室等を競技会運営上、最も使用しやすい場所に設ける。</p> <p>21 記者席をフィニッシュライン上方の観覧席に設置し、<u>通信機器</u>の設置することが可能な施設とする。<u>ただし、1994年以前から継続して公認されている第1種競技場及び多目的な利用を予定する競技場においては記者席、通信機器は仮設でもよい。</u></p> <p>22 大規模競技会では、監視カメラ（12カ所）を必要とする。</p>
<p>23 観客の収容数は15,000人以上（芝生を含む）とする。少なくともメインスタンドは、7,000人程度で屋根付きとする。（陸上競技専用、多目的）</p> <p>23 観客の収容数は15,000人以上（芝生を含む）とする。少なくともメインスタンドは、7,000人程度で屋根付きとする。多目的競技場として必要な収容数は、別に定めればよい。（既設）</p> <p>24 メインスタンドまたはバックスタンド側に雨天走路を必要とする。</p> <p>25 役員、補助員等の休憩の場を確保する。</p>	<p>23 観客の収容数は15,000人以上（芝生を含む）とし、メインスタンドは、<u>観客の収容数7,000人以上かつ屋根付きとする。1994年以前から継続して公認されている第1種競技場のメインスタンドの収容数は、スタンドを改修する時に対応することに努めるものとする。</u></p> <p><u>改正理由：メインスタンドの収容数は7000人程度と不明瞭であったので、7000人以上と明確にする。</u> 基本仕様制定（1994年）前の1種は以前からメインスタンド5,000人以上であった。基本仕様制定時にはメインスタンドの規定はなく、1999年改正時に7000人程度となった。 既設の競技場では、基本仕様制定前からの1種競技場では観客の収容数は満たしているが、メインスタンドの収容数を満たしていない競技場がある。 スタンドの改修には莫大な費用が必要となり、対応ができない状況である。また、スタンド改修の費用があれば、トラック&フィールドの整備を優先したい。既設競技場のスタンド改修の適予を明記する。</p> <p>24 メインスタンドまたはバックスタンド側に雨天走路を必要とする。</p> <p>25 役員、補助員等の休憩の場を確保する。</p>

<p>その他の施設</p> <p>26 補助競技場は、第3種公認陸上競技場とする。1周の距離が400mの全天候舗装で6レーンまたはそれ以上とし、直走路は8レーンとする。また、舗装材は主競技場と同等とし、表面仕上げおよび硬度は同一とする。立地条件等やむを得ない事情により、平成23年4月1日現在、補助競技場の1周の距離が300mの全天候舗装で6レーンまたはそれ以上であり、直走路が8レーンの第4種公認陸上競技場である場合に限りこれを認める。</p> <p>27 大規模競技会では、投てき練習場は主競技場の至近に設置する。</p> <p>28 主競技場と補助競技場との動線を簡単かつ明快な関係にあるようにしなければならない。また、陸上競技場の設置にあたっては主競技場と補助競技場の相対関係（動線）を十分考慮し、特に招集所とその付近の仮設トイレ等を含めた施設づくりをする。</p> <p>その他</p> <p>29 陸上競技場の設置についての計画、公認陸上競技場としての認定に必要とされる申請は、その所在地の加盟団体を経て、加盟団体会長名で提出しなければならない。</p> <p>30 走路および助走路の全天候舗装の厚さが規定に合致しているかを、本連盟検定員が確認する。</p> <p>31 派遣費用は、申請者が負担する。旅費は、本連盟の定める旅費規程に準ずる。</p>	<p>その他の施設</p> <p>26 補助競技場は、第3種公認陸上競技場とする。1周の距離が400mの全天候舗装で6レーンまたはそれ以上とし、直走路は8レーンとする。また、舗装材は主競技場と同等とし、表面仕上げおよび硬度は同一とする。立地条件等やむを得ない事情により、2011年4月1日現在、補助競技場の1周の距離が300mの全天候舗装で6レーンまたはそれ以上であり、直走路が8レーンの第4種公認陸上競技場である場合に限りこれを認める。</p> <p>27 大規模競技会では、投てき練習場は主競技場の至近に設置する。</p> <p>28 主競技場と補助競技場との動線を簡単かつ明快な関係にあるようにしなければならない。また、陸上競技場の設置にあたっては主競技場と補助競技場の相対関係（動線）を十分考慮し、特に招集所とその付近の仮設トイレ等を含めた施設づくりをする。</p> <p>その他</p> <p>29 陸上競技場の設置についての計画、公認陸上競技場としての認定に必要とされる申請は、その所在地の加盟団体を経て本連盟に提出しなければならない。</p> <p>30 走路および助走路の全天候舗装の厚さが規定に合致しているかを、本連盟検定員が確認する。</p> <p>31 派遣費用は、申請者が負担する。旅費は、本連盟の定める旅費規程に準ずる。</p>
	<p>2021年4月1日改正</p>

第2種基本仕様新旧対照表

第2種公認陸上競技場（新設、既設）		改	正
1 トラックは8レーンまたは9レーンとし、1レーンの幅は1m220とする。走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートライン付近の厚さは18mm以上とする。	2 障害物競走の水濺は、レーンの内側または外側に設置する。水濺の部分の走路の厚さは25mm以上とする。	3 トラック内のマーキングは、必要最小限とする。	1 トラックは8レーンまたは9レーンとし、1レーンの幅は1m220とする。走路の厚さは13mm以上とする。直走路のスタートライン付近の厚さは18mm以上とする。
			2 障害物競走の水濺は、レーンの内側または外側に設置する。水濺の部分の走路の厚さは25mm以上とする。水濺を内側に設置するときは、トラックの直走路84m390以上を推奨する。
			3 トラック内のマーキングは、必要最小限とする。
跳躍場			
4 第1曲走路側の半円部分をAゾーン、第2曲走路側の半円部分をBゾーンと称し、トラックの半径の2つの中心点を結んだ線の延長上の全天候舗装部分は、原則として長さはいずれかを25m以上とし、助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。	5 走幅跳、三段跳の助走路ならびに砂場は、メインスタンド側またはバックスタンド側（インフィールドでもよい）に6カ所以上設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。	6 棒高跳の助走路ならびにボックスは4カ所以上設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。	4 第1曲走路側の半円部分をAゾーン、第2曲走路側の半円部分をBゾーンと称し、トラックの半径の2つの中心点を結んだ線の延長上の全天候舗装部分の長さは、原則として長さは25m以上とする。走高跳はAゾーン、Bゾーンに合計3カ所以上、いずれかのゾーンで2カ所同時に競技が出来るように設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。
			5 走幅跳、三段跳の助走路ならびに砂場は、メインスタンド側またはバックスタンド側（インフィールドでもよい）に6カ所以上設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。
			6 棒高跳の助走路ならびにボックスは4カ所以上設置する。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接踏切る部分の厚さは18mm以上とする。
投てき場			
7 投てき用芝生は、投てき距離が十分であるようスペースを確保する。多目的競技場の仕様を意図するときは、延長最大106m×73mとする。	参考図		7 投てき用芝生は、投てき距離が十分であるようスペースを確保する。多目的競技場の仕様を意図するときは、延長最大106m×73mとする。
			7 投てき用芝生は、投てき距離が十分であるようスペースを確保する。多目的競技場の仕様を意図するときは、延長最大106m×73mとする。
			7 投てき用芝生は、投てき距離が十分であるようスペースを確保する。多目的競技場の仕様を意図するときは、延長最大106m×73mとする。

<p>8 砲丸投は、AゾーンまたはBゾーンのいずれかに扇形の投てきエリアを設置する。その他、芝生に投てきするサークルを1カ所以上つくることができる。</p> <p>9 ハンマー投、円盤投のサークルは兼用型でもよいが、2カ所設置する。砲丸投のサークルと兼ねてはならない。</p> <p>10 ハンマー投の囲いのパネルの高さは9m、7mとする。円盤投の囲いは従来通りであるが、ハンマー投の囲いで兼ねることができる。</p> <p>11 やり投の助走路の末端は、やりが構造物と接触しないようにする。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接階切部分の厚さは18mm以上とする。半円より外側の助走路の厚さは13mmでもよい。</p> <p>構造物</p> <p>12 レーンの外側からスタンドまでは極力近づける。ただし、スタンドから競技全体が見わたせ、死角が生じないように配慮する。</p> <p>13 メインスタンド側のダッグアウトの幅は2m程度が望ましく、また床のレベルはグラウンドレベルと望ましい。やむをえない場合は50cmまで下げることができる。</p> <p>14 ダッグアウトの天井の高さは最低2m300以上が望ましい。</p> <p>15 メインスタンドの中央廊下の幅は3m以上が望ましい。</p> <p>16 高齢者、身障者に配慮し、車椅子席を設置する。その席数については、<u>条例または行政と協議されたい。</u></p>	<p>8 砲丸投は、AゾーンまたはBゾーンのいずれかに扇形の投てきエリアを設置する。その他、芝生に投てきするサークルを1カ所以上つくることができる。</p> <p>9 ハンマー投、円盤投のサークルは兼用型でもよいが、2カ所設置する。砲丸投のサークルと兼ねてはならない。</p> <p>10 ハンマー投の囲いの可動パネルと最前部の2mの部分の囲いの高さは9m以上、囲いの後部のパネルが解掛け部分は7m以上とする。ハンマー投の囲いで円盤投の囲いを兼ねることができる。</p> <p>11 やり投の助走路の末端は、やりが構造物と接触しないようにする。助走路の厚さは15mm以上とする。全天候舗装に直接階切部分の厚さは18mm以上とする。半円より外側の助走路の厚さは13mmでもよい。</p> <p>構造物</p> <p>12 レーンの外側からスタンドまでは極力近づける。ただし、スタンドから競技全体が見わたせ、死角が生じないように配慮する。</p> <p>13 メインスタンド側のダッグアウトの幅は2m程度が望ましく、また床のレベルはグラウンドレベルとする。やむをえない場合は50cmまで下げることができる。</p> <p>14 ダッグアウトの天井の高さは最低2m300以上が望ましい。</p> <p>15 メインスタンドの中央廊下の幅は3m以上が望ましい。</p> <p>16 高齢者、身障者に配慮し、車椅子席を設置する。またその動線を確保する。<u>車椅子席の席数については、条例その他の法令等の規定に従うものとする。</u></p>	<p>17 第2種公認陸上競技場に必要ない器材が完全に収容できる用器具庫を設置する（多目的としての用器具庫は別途考慮する必要がある）。用器具庫の出入口の、高さ、間口はマット等の出し入れに支障のないようにする。床はグラウンドレベルにする。</p> <p>18 夜間照明設備があることが望ましい。また移動式でもよいが、フィニッシュラインの付近は写真判定に支障のない明るさを必要とする。</p> <p>19 電光掲示盤があることが望ましい。第2種公認陸上競技場で開催し得る競技会の条件として電光掲示盤を必要とするときは、仮設でもよい。常設にあたっては本連盟と事前に協議されたい。</p> <p>20 スタンドの上層部には放送室、指令室、電光掲示盤操作室等を設け、同一レベルに隣り合わせて写真判定室ならびに装飾を設置する。また、下層部には、情報処理室、コピー室、医務室、ドーピング検査室等、競技会運営上、最も使用しやすい場所に設ける。（新設）</p> <p>20 スタンドの上層部には放送室、指令室、電光掲示盤があるときは操作室等を設け、同一レベルに隣り合わせて写真判定室ならびに装飾を設置する。また、下層部には、情報処理室、コピー室、医務室、ドーピング検査室等、競技会運営上、最も使用しやすい場所に設ける。少なくとも、写真判定室と審判長の間にはインカムを必要とする（既設）</p>	<p>17 第2種公認陸上競技場に必要ない器材が完全に収容できる用器具庫を設置する用器具庫の出入口の、高さ、間口はマット等の出し入れに支障のないようにする。床はグラウンドレベルにする。<u>ただし、他の競技の用具等も収納する場合は、この基準を充足するほかにその必要を伝達を確保するものでなければならない。</u></p> <p>18 夜間照明設備があることが望ましい。また移動式でもよいが、フィニッシュラインの付近は写真判定に支障のない明るさを必要とする。</p> <p>19 電光掲示盤を設置することが望ましい。第2種公認陸上競技場で開催し得る競技会の条件として電光掲示盤を必要とするときは、仮設でもよい。常設にあたっては本連盟と事前に協議されたい。</p> <p>20 スタンドの上層部には放送室、指令室、電光掲示盤操作室等を設け、同一レベルに隣り合わせて写真判定室ならびに装飾を設置する。また、下層部には、情報処理室、コピー室、医務室、ドーピング検査室、ウェイト・トレーニング室等を競技会運営上、最も使用しやすい場所に設ける。<u>1994年以前から継続して公認されている第2種競技会場では、少なくとも、写真判定室と審判長の間には通信機器を必要とする。</u></p>
---	--	---	---

<p>21 記者席は仮設でもよいが、フィニッシュライン上方の観覧席に設置し、電話、モニター等の設置が可能な施設とする。</p> <p>22 大規模競技会では、監視カメラ（12カ所）を必要に応じて用意する。</p> <p>23 観客の収容数は5,000人以上（芝生を含む）とする。少なくともメインスタンドは、1,000人程度で屋根付きを希望する。多目的競技場として必要な収容数は、別に定めればよい。</p> <p>24 メインスタンドまたはバックスタンド側に雨天走路を設置することが望ましい。</p> <p>25 役員、補助員等の休憩の場を確保することが望ましい。</p> <p>その他の施設</p> <p>26 全天候舗装の補助競技場があることが望ましい。</p> <p>27 投てき練習場が主競技場の近くにあることが望ましい。</p> <p>28 主競技場と補助競技場の相対関係（動線）を十分考慮し、とくに招集所とその付近の仮設トイレ等を含めた施設づくりをする。（新設）</p> <p>28 主競技場と補助競技場の動線や招集所付近の施設等については、開催競技会の規模により、新設第2種公認陸上競技場の仕様を示されているように設置できればよい。（既設）</p> <p>その他</p> <p>29 陸上競技場の設置についての計画、公認陸上競技場としての認定に必要とされる申請は、その所在地の加盟団体を経て、加盟団体会長名で提出しなければならない。</p> <p>30 走路および助走路の全天候舗装の厚さが規定に合致しているかを、本連盟検定員が確認する。</p> <p>31 派遣費用は、申請者が負担する。旅費は、本連盟の定める旅費規程に準ずる。</p>	<p>21 記者席は仮設でもよいが、フィニッシュライン上方の観覧席に設置し、通信機器の設置が可能な施設とする。</p> <p>22 大規模競技会では、監視カメラ（12カ所）を必要に応じて用意する。</p> <p>23 観客の収容数は5,000人以上（芝生を含む）とする。少なくともメインスタンドは、1,000人以上とし、屋根付きを希望する。</p> <p>改正理由：メインスタンドの収容数は1000人程度と不明瞭であったので、1000人以上と明確にする。 基本仕様制定（1994年）前の2種は以前からメインスタンド1,000人以上であった。基本仕様制定時既設の競技場では、観客、メインスタンドの収容数は満たしている。</p> <p>24 メインスタンドまたはバックスタンド側に雨天走路を設置することが望ましい。</p> <p>25 役員、補助員等の休憩の場を確保することが望ましい。</p> <p>その他の施設</p> <p>26 全天候舗装の補助競技場があることが望ましい。</p> <p>27 投てき練習場が主競技場の近くにあることが望ましい。</p> <p>28 主競技場と補助競技場の相対関係（動線）を十分考慮し、とくに招集所とその付近の仮設トイレ等を含めた施設づくりをする。</p> <p>その他</p> <p>29 陸上競技場の設置についての計画、公認陸上競技場としての認定に必要とされる申請は、その所在地の加盟団体を経て本連盟に提出しなければならない。</p> <p>30 走路および助走路の全天候舗装の厚さが規定に合致しているかを、本連盟検定員が確認する。</p> <p>31 派遣費用は、申請者が負担する。旅費は、本連盟の定める旅費規程に準ずる。</p>
---	--

② 公認陸上競技場に関する細則の改正

- ・ ブルートラックでの青色マーキングの規定の追加。
- ・ 三段跳の踏切板位置の明確化。
- ・ 全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表の修正
- ・ 競歩用パドルの競技規則第 230 条に整合するため、名称とサイズの変更

(標識タイルとマーキング)

第 10 条

6. 塗布する色彩および形状は、全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表（別表 1）による。ただし、舗装がレンガ色以外の場合は、見やすい色に変更してもよい。なお、別表 1 の青色のマーキングは、ブルートラックの場合には赤色とすることが望ましい。

(走幅跳、三段跳)


第 16 条 走幅跳・三段跳の施設はつぎのとおりとする。（ ）内は女子。

	施設数	助走路		砂 場			踏切板から 砂場までの距離	
		長さ (m)	幅 (m)	幅 (m)	長さ (m)	深さ (m)	走幅 (m)	三段 (m)
第 1・2 種	6 以上	45 以上	1.22	2.75 ～ 3.00	8 以上	0.50 以上	2	13 (10)
第 3 種	1 以上	40 以上	1.22	2.75 ～ 3.00	8 以上	0.50 以上	2	11 以上 (7 以上)
第 4 種	1 以上	40 以上	1.22	2.75 ～ 3.00	7 以上	0.50 以上	2	11 以上 (7 以上)

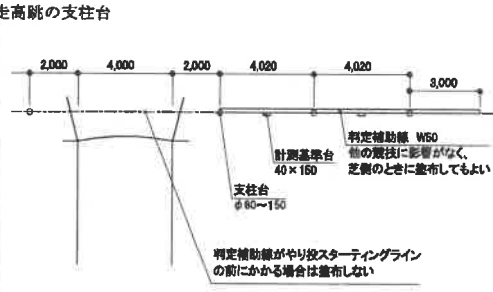
- 〔注〕 1 助走路の長さは踏切板からとする。
 2 助走路の横断面は山型が望ましい。
 3 施設数は砂場の数とする。助走路の両側に砂場があるときは 2 施設とカウントする。5.55m 以上の一つの砂場に同時に競技が出来る助走路があるときは 2 施設とカウントする。
 4 走幅跳と三段跳の設備は、それぞれ併用してもさしつかえない。
 5 走幅跳、三段跳の助走路は、踏切板ならびに砂場の上縁と同一レベルとする。
 6 走幅跳の踏切板は、施設数以上を設置する。
 7 三段跳の踏切板から砂場までの距離の最大は 13m とする。踏切板から砂場までの距離は、開催する競技会及び地域のレベルに応じて上記と異なる距離の踏切板を追加して設置することができる。第 1 種、第 2 種の踏切板から砂場までの距離女子 10m、男子 13m は、6 か所以上が基本であるが、少なくとも 4 箇所以上とし、同時に競技が出来るように設置する。第 3 種、第 4 種の踏切板から砂場までの距離女子 7m 以上、男子 11m 以上は、開催する競技会及び地域のレベルに応じて踏切板を設置する。国際大会では、女子三段跳の踏切板から砂場までの距離は 11m より短くしない。設置する踏切板が不足する競技場は、公認満了が 2026 年 4 月 1 日以降の継続検定までに対応する。

全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表

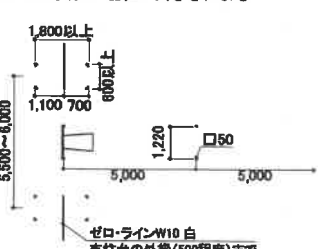
- ・ 8、代用縁石の置き方の削除

8	<p>3000m、5000mのグループスタートの末端(合流点になる所) (ただしL=80m、R=37.898mの場合)</p> <p>マーキング(緑)50×50</p>  <p>代用縁石(白)</p> <p>走る方向</p>	緑
---	---	---

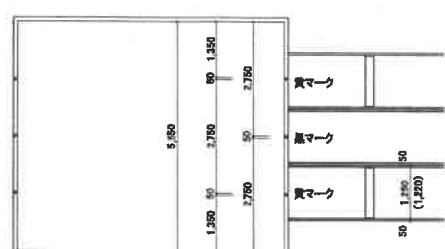
- ・ 18、走高跳、判定補助線の訂正

18	<p>走高跳の支柱台</p>  <p>判定補助線 W50 他の競技に影響がなく、 芝割のときに敷布してもよい</p> <p>計測基準台 40×160</p> <p>支柱台 φ80~150</p> <p>判定補助線がやり投スターティングライン の前にかかる場合は敷布しない</p>	白
----	---	---

- ・ 19、レーン幅 1m250 の訂正、今年度校正ミス

19	<p>棒高跳の助走路、支柱台 棒高跳助走路が単独である場合は実線であり 支柱台の寸法は支柱の土台の大きさによる</p>  <p>ゼロラインW10 白 支柱台の外縁(500程度)まで</p>	白
----	---	---

- ・ 20、走幅跳・三段跳での中央の助走路を使ったときの黄マークの追加

20	<p>走幅跳、三段跳の助走路</p>  <p>黄マーク</p> <p>黒マーク</p> <p>黄マーク</p>	白
----	--	---

中央に助走路を設置した場合黄マークを入れる

用器具一覧

必備用具

用器具名称	区別	1種	2種	3種	4種	4種L	摘 要
競歩用イエローパドル 競歩警告用円板（黄）	×	10組	10	5	0	0	直径 120mm 以上 150 mm～160 mm 柄の長さ全長 210mm 以上 120 mm～150 mm、プラスチック又は軽金属表裏同一マークとする。イエローパドル黄は2種類、レッドパドル赤は無地
競歩用レッドパドル 競歩失格用円板（赤）	×	2枚	2	2	0	0	

必備器具

競歩用掲示板 競歩用警告掲示板	×	1台	1	1	0	0	縦 1000 mm×横 800 mm以上
--------------------	---	----	---	---	---	---	----------------------

付則 2021年4月1日改正



- ・ 名称を競技規則と整合する。
- ・ 国際競歩審判員（IRWJ）が使用しているパドルの寸法を加える。
- ・ ロスオブコンタクトのマークが違う。
- ・ IRWJが使用しているものと同様な製品が作成されている。
- ・ どちらのパドルも使える。
- ・ IRWJを呼ぶ大会では海外選手も参加するので、出来ればIRWJと同じパドルを使えば戸惑わないので、IRWJと同じパドルを使っていただきたい。

③ その他の注意事項

● 150m、145mのスタート位置

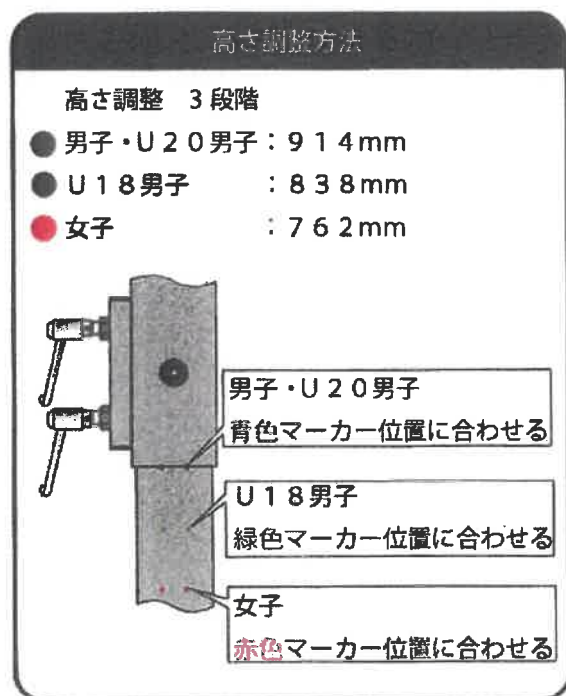
- ・ 150mスタート … 300mHのハードル4台目と同じ
- ・ 145mスタート … 400mHのハードル7台目と同じ

● 300mH設置の注意事項

- ・ 競技会での実施が予定されています。すべての競技場で必要ではないことから設置の義務付けはしていません。各陸協で設置を必要とする競技場を検討して設置を働きかけてください。設置後、検定が必要となります。
- ・ 標識タイルでない費用負担の少ない表示方法としています。
- ・ マーキングはしていませんので、競技会時に設置位置をマーキングしてください。チョーク付きの水糸を利用すると簡単に早く設置ができます。この方法は、全国検定会議、全国区域技術役員会議において各都道府県の検定員、技術役員に周知をしています。
- ・ ハードルの高さは、男子 U20、914 mm、U18、838 mm、女子 762 mm。

● 障害物の対応(競技規則第 169 条)

- ・ 障害物の高さに U18 男子 (838 mm(±3 mm)) の規格が 2020 ルールに新たに定められた。
- ・ 国内では競技会で行わないことから、〔国際〕対応になっているが、導入されてもすべての競技場が対応するには 10 年近くかかることから、2020 年から U18 の高さにも対応した製品が納入されている。
- ・ 製品の値上げはなく、競技場の了解を得て納入することとなっている。
- ・ 固定障害は水濠改修時など固定障害の支柱を更新するとき、移動障害は更新するときに対応している。義務付けではないので注意されたい。
- ・ 納入した競技場では、高さの違いが判りづらく、競技会時に高さの修正に間違いがないよう注意をされたい。使用する審判員等に周知をしてください。



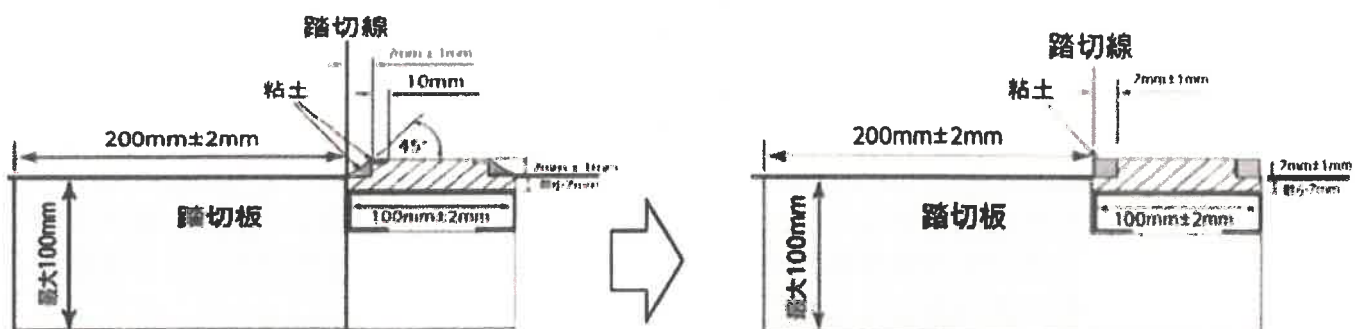
固定障害の高さの表示

● 障害物競走等、グループスタートにおける代用縁石の置き方

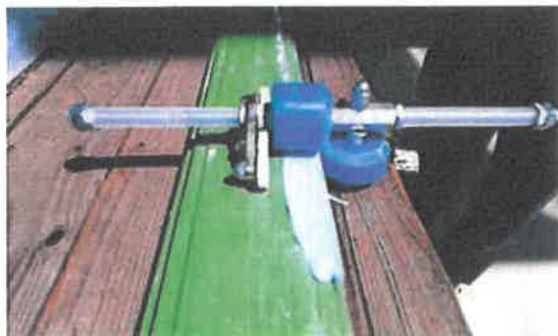
- ・ 競技規則により、国内の競技場では代用縁石を置くことから、代用縁石を縁石とみなして、トラックの計測は縁石の外側から300mmの所で計測している。
- ・ 代用縁石を設置する際は、競技場保有の代用縁石の数が不足しているので、1本おきとしていたが、競技規則に則れば全線に置く必要がある。
- ・ 競技場の代用縁石の補充整備を進めている。

● 粘土板の粘土の角度変更

- ・ 粘土を45度から90度となる。（競技規則第184条3～5）
- ・ 適用開始時期が延期された。
WA：2020年11月1日 → 2021年11月1日から
国内：2021年4月1日 → 2022年4月1日から
- ・ 粘土板は、新ルール適用後も現在使用しているタイプ（45度成型対応）が粘土を90度に成型できるため、粘土板はそのまま使用する。
- ・ 粘土を90度に成型するローラーは製品がある。



粘土を45°の成型から90°に成型することになる



成型ローラー



ローラーなしでも成型可

● 兼用サークル表面の仕上げの追加

- ・ 2019WA施設マニュアルの改正において、ハンマー投の兼用サークル（ドーナツ板）は素材によっては雨天時に滑りやすいものがあり、上部を白色以外で、滑らない仕上げとされた。
- ・ 国際大会では対応した物を使用する必要がある。
- ・ 国内でも、滑らない仕上げの製品が販売される。（190,000円＋税）検定品であるので、買い替え時には滑らないものを購入する。
- ・ 買い替えるのは高額のため、買い替えるまでの措置として競技場にある製品には、滑らないテープを貼ることで対応可能としている。

推奨品：すべり止めテープザラザラ、テープ代は概ね8,000円程度。
色は透明あるいは単色。
規格外の白のドーナツ板も違う色を貼ることで使用可。
現地で吹き付けをしたところもあるが、買い替えるまでの措置であり、安価のものでの対応とされたい。



JAAF

NF2004D 円盤投、ハンマー投兼用サークル

(台)本体価格 ¥190,000+税 3



テープを貼った状況

● 長距離競走路、競歩路コース設定の注意事項

① 長距離競走路、競歩路コース設定

- ・ 競技会では計測したコースを設定してください。計測したコースと同じに設定されないと公認大会と認められません。
- ・ 計測時に作成された経路図、ポイント図を基に設定をしてください。コース所有者がこれらの図面を作成しています。
- ・ 計測されたコースと違うコースとなる時には、事前にコース変更の検定を受けなければなりません。
- ・ 途中計時の記録もコース設定の条件を満たしている箇所は、公認記録となりますが、必ずラインを入れてください。

② WA 認証コースの競技会

- ・ 世界記録、アジア記録の認定において、競技に先立ち、正式に計測され記録されたとおりのコースであることを確認しなければなりません。（競技規則第260条21(d)）
- ・ 当初のコース計測を行った計測員（A級、B級）またはその計測員に指名された者が、競技中に先導車に乗り込み、競技者が同じコースを走っていることを確認しなければなりません。
- ・ 陸連の後援競技会では国際道路コース計測員の派遣を義務付けております。
- ・ 派遣を希望する大会では、陸連に派遣依頼を提出してください。
- ・ プログラムの審判編成には「国際道路コース計測員」としてください。

③ 競歩路コース

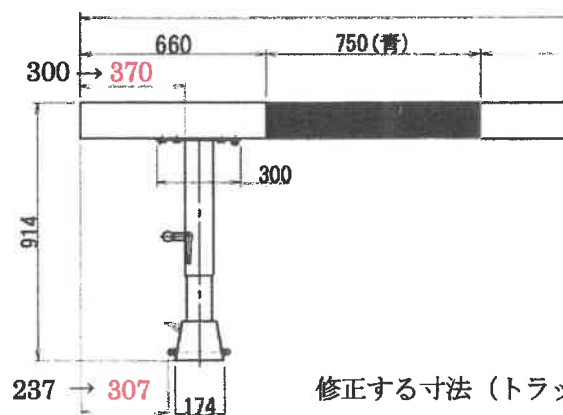
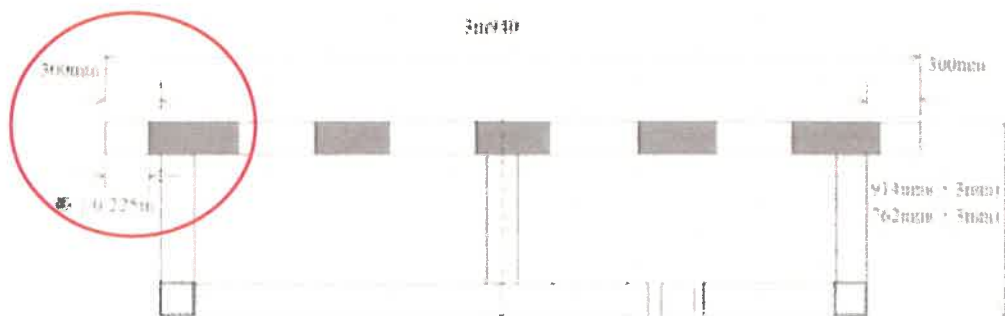
- ・ 2022 オレゴン世界選手権から男女の35km競歩が追加されることになった。
 - ・ 35キロ競歩を正式種目となる予定。WAが規則改正時期を検討中。
- WA規則改正後、国内規則の変更を経てからコース計測等の対応をする予定。

④ 移動障害物の現地修正

- ・ 移動障害物の規格外の納入 2020 年検定員会議で、移動障害物の規定に合っていないが大丈夫かとの質問があり、製造しているニシスポーツに確認したところ取り付けの寸法が違っていた。
- ・ バーは、トラックの内縁から 300 mmフィールドの内側に出ていなければならないが、支柱から 300 mmとなっていて、規格から 63 mm不足している。
- ・ 製品は 2007 年世界陸上時から納入している。WA認証品で、日本の検定品である。検定では、バーの上面で 300 mmを確認していた。
- ・ 90 競技場 (WA-class1&2/9 1種/11 2種/10 3種/47 4種/16 未公認/3) に納入されている。
- ・ 競技運営委員会に、多くの競技会が開催され競技者への影響が少ないことから、該当する移動障害物の利用を現地修正できるまで認めるよう検討をお願いしている。
- ・ ニシスポーツで 2021 年 2 月より大規模大会開催及び検定実施の競技場から順次現地で修正をする。修正完了は概ね 3 年間を予定している。

第 169 条 5 (略)

障害物は最上部のバーの少なくとも 300 mmが、トラックの内縁から測って、フィールドの内側にあるようにトラックに置かなければならない。



修正する寸法 (トラックの内縁から 307 mmとなる)